

令和5年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの 使用に関する実態調査」結果概要

1 回収状況

54市町村全てから回答有。(回収率 100%)

2 年度別全項目実施率について (別添資料1-3)

資料1-3は、令和2年度から令和5年度までの全国及び千葉県のチェックリスト全項目実施率の推移について示したものです。

全てのがん種、集団検診・個別検診いずれも、全国実施率を超えています。

胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんの集団検診は9割を超えています。

3 令和5年度の実施率について (別添 資料1-4)

資料1-4は、集団検診及び個別検診のチェックリストの各項目について、全国と千葉県の実施率をまとめたものである。数値が赤字になっている項目は、千葉県の実施率が全国の実施率を10%以上下回っている。

＜実施率が低い項目(集団・個別共通項目)＞

問 1-2 対象者全員に、個別に受診勧奨を行いましたか

4 市町村別の実施率について (別添 資料1-5～1-6)

資料1-5は市町村の回答を一覧にしたものであり、資料1-6は市町村別の実施項目数を積み上げグラフで表示したものである。

全ての検診において、市町村により実施状況に顕著な差がみられる。

5 令和5年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」 結果報告書

(国立研究開発法人 国立がんセンターがん対策研究所 検診研究部 検診実施管理研究室)より抜粋

まとめ

チェックリストは「最低限整備すべき項目」であり、将来的に全項目の達成が必要です。全体的に実施率は改善傾向ですが、実施率が特に低い項目の課題解決が重要です。集団検診では特に「検診未受診者への再勧奨」と「検診機関の質担保」、個別検診は集団検診より体制整備が遅れています。現時点で残された課題は、現場で解決が困難な課題です。各チェックリスト項目の正しい理解に基づき、市区町村、都道府県、検診機関、都市区医師会、都道府県医師会等が課題を共有し、連携して体制改善を図ることが求められます。